

教師と子供

小川未明

青空文庫

それは不思議な話であります。

あるところに、よく生徒をしかる教師がありました。また、ひじょうに物覚えの悪い生徒がありました。教師はその子供をたいへん憎みました。

「こんなによく教えてやるのに、どうしてそれが覚えられないのか。」といつて、教師は歯ぎしりをして怒りました。

けれど、その子供は、教えるあとから忘れてしまったのです。

「おまえみたいなばかは少ない。ほかの子供がこうして覚えるのに、それを忘れるというのは魂が腐っているからだ。おまえみたいな子供は、普通のことでは性根が直らない。」と、教師はいつて、いろいろ頭の中で、その子供を苦しめる方法を考えました。いままで晩留めにしたり、立たせたり、むちでうったことは、たびたびあったけれど、なんの役にも立たなかつたのであります。

夏の日のことで、家の外は焼きつくような熱さでありました。教師は、ふと窓の外を見ましたが、あることを頭の中に想い浮かべました。

その物覚えの悪い子供に、金だらいに水を入れてそれを持たせて外に立たせることに

しました。

「この水が熱くなるまで、こうしてじつと立っておれ。」と、教師はいいました。

子供は、教師の仕打ちをうらめしく思いました。そして、日の当たる地上に、金だら

いを持って立ちながら考えました。

「ほんとうに自分はばかだ。ほかのものがみんな覚えるのに、なんで自分ばかりは覚えられないのだろう。」といって、涙ぐんでいました。その子供は、正直なやさしい子供であつたのです。

学校の屋根に止まって、じつとこの有り様を見守っていたつばめがありました。つばめは、たいそうのどが渴いていました。つばめはよく、その子供がやさしい性質であることを知っていました。

「どうしたんですか。みんなが教室に入っているのに、あなたばかりここに立っているのですか。私は、たいそうのどが渴いています。この水を飲ましてください。」と、つばめは飛んできて金だらいに止まっていいました。

子供は、いっそう悲しくなつたのであります。

「ああ、たくさん水を飲んでおくれ。それにしても私は、どうして物覚えが悪いのだろ

う。私^{わたし}から見^みると、おまえはどんなにりこうだかしかない。寒^{さむ}くなると、幾^{いく}百里^りと遠^{とお}い南^{なみ}の国^{くに}へゆき、また春^{はる}になると古^{ふる}巢^すを忘^{わす}れずに帰^{かえ}ってくる。私^{わたし}がもしおまえであつたら、こんな^{せんせい}に先生^{せんせい}にしかられることはないのだが。」と、子供^{こども}はいいました。

これ^きを聞^きいていたつばめは、黙^{だま}つてくびを傾^{かたむ}けていましたが、

「そんなら、私^{わたし}が、あなたのお腹^{はら}の中^{なか}に入^{はい}りましょう。」と、つばめはいいました。

子供^{こども}は、どうしてつばめが、自分^{じぶん}の腹^{はら}の中^{なか}に入^{はい}れるかわかりませんでした。

「ほんとうに、おまえは、私^{わたし}の魂^{たましい}になつておくれ。」と、子供^{こども}は、つばめに向^むかつて頼^{たの}みました。

つばめは、不意^{ふい}に自分^{じぶん}の舌^{した}をかみ切^きつて、足^{あし}もとに落^おちて死^しんでしまいました。

子供^{こども}は、夢^{ゆめ}かとばかり驚^{おどろ}きました。そして、そのつばめの死^し骸^{がい}を拾^{ひろ}い上げて、ふところの中^{なか}に隠^{かく}して、後^{のち}になつてから、それを学^{がっ}校^{こう}の裏^{うら}の竹^{たけ}やぶの中^{なか}に懇^{ねんご}ろに葬^{ほうむ}つてやりまし

た。それからというものは、急^{きゆう}に、その子供^{こども}は産^うまれ変^かわつたように者^{もの}覚^{おぼ}えがよくなりま

した。みんなは驚^{おどろ}くばかりでした。すると、教^{きょう}師^しは自^じ慢^{まん}をして、

「子供^{こども}を教^{きょう}育^{いく}するには、きびしくするにかぎる。あんなばかですら、こんなりこうに

なつたのは、だれの力ちからでもない。俺おれの力ちからだ。」といいふらしました。

それから、教師きょうしは、いっそう生徒せいとに対たいして、きびしくなりました。右みぎを向むいても、左ひだりを見みてもやかましくいつて、生徒せいとらをしかつたのであります。

やがて、夏なつが過すぎて秋あきになりました。輝かがやかしい夕暮ゆうぐれ方がたの空そらの雲くもの色いろも悲かなしくなつて、吹ふく風かぜが身みにしみるころになると、他たのつばめは南みなの国みくにをさして帰かえりました。

学がっこう校こうの裏うらの竹たけやぶが日ひに日ひに悲かなしそうに鳴なつています。すると子供こどもは、窓まどの外そとをじつとながめて空くう想そうにふけりました。これを見みつけた教師きょうしは、

「なんで、そう横よこを向むくんのだ。」としかつて、子供こどもをにらみました。子供こどもは、また、毎まい日にち教師きょうしからしかられたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 2」講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

初出：「芸術自由教育」

1921（大正10）年3月

※表題は底本では、「教師《きょうし》と子供《こども》」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：富田倫生

2012年5月23日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

教師と子供

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>